

平成27年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成26年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 大田花き
 コード番号 7555 URL <http://www.otakaki.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 磯村 信夫
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役管理本部長 (氏名) 金子 和彦

TEL 03-3799-5571

四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	12,104	6.4	56	44.0	88	33.2	56	29.2
26年3月期第2四半期	12,935	4.1	101	13.1	131	17.6	80	17.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	11.18	
26年3月期第2四半期	15.80	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭
27年3月期第2四半期	6,568		4,661		71.0	915.99
26年3月期	6,835		4,666		68.3	916.81

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 4,661百万円 26年3月期 4,666百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期		0.00		12.00	12.00
27年3月期		0.00			
27年3月期(予想)				12.00	12.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,034	3.0	286	23.5	321	12.9	207	17.2	40.74

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

- (3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	5,500,000 株	26年3月期	5,500,000 株
期末自己株式数	27年3月期2Q	410,539 株	26年3月期	410,539 株
期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	5,089,461 株	26年3月期2Q	5,090,224 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
5. 補足情報	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国経済は、4月からの消費税率引き上げ、円安による物価の上昇圧力による節約志向など、個人消費に陰りが見え始めました。一部、レジャー産業や自動車産業などでは業績が回復しているものの、内需関連業界は総じて低調であり、景気はまだら模様で、横ばいからマイナスとなりました。

このような経済状況の下で当社は、従来からの冠婚葬祭向けの花き、母の日などギフト向けの切花・鉢物、そして花のヘビーユーザーでもある団塊の世代に向けた花きを中心に流通させました。加えて、消費税率引き上げによる買い控えに対抗するためにも、団塊ジュニアにも焦点を当て、この世代が好むオレンジや黄色などビタミンカラーの花き、バラ・カーネーション・季節の草花類を流通させ、消費拡大を図りました。しかし花の小売店が減少している中、それを補うスーパーマーケットの花売り場は、依然ロスの少ない仏花の販売が中心だったことで、当社は予定していた成果を上げることはできませんでした。

以上の結果、当第2四半期累計期間(平成26年4月～9月)の業績は、売上高12,104,638千円(前年同四半期比6.4%減)となり、内訳をみますと、切花の取扱高11,080,147千円(前年同四半期比6.8%減)、鉢物の取扱高958,800千円(前年同四半期比3.2%減)、付帯業務収益65,690千円(前年同四半期比6.0%増)となりました。利益につきましては、営業利益56,954千円(前年同四半期比44.0%減)、経常利益88,111千円(前年同四半期比33.2%減)、四半期純利益56,919千円(前年同四半期比29.2%減)と減収減益となりました。

なお、当社は花き卸売事業単一セグメントであるため、セグメント別の記載は行なっておりません。

切花、鉢物に関する概況は次の通りです。

切花

売上金額	11,080,147千円(前年同期比6.8%減)
------	--------------------------

取扱数量	204,713千本(同 2.4%減)
------	--------------------

・切花は取扱数量、売上金額とも前年を下回りました。4月～5月は前年に比べ特に入荷量が減少しました。これは冷え込みなどの天候要因や、暖房費の高騰で加温が不十分であったことなどによります。しかし、消費税率の引き上げにより小売店で客足が鈍るなど需要も弱く、品薄でありながらも相場は低迷しました。

・5月の母の日には、定番の赤系カーネーションの引き合いが強まりました。反面、スプレータイプのカーネーションは受注が伸びませんでした。母の日を終えると、その後は生産地の切り替わり時期で品質が安定しないこと、大きな需要がないことなどで厳しい販売状況となりました。特に地方は都内より消費が落ち込んでおり、品薄であっても仕入には繋がらないなど、いっそう厳しい状況でした。

・6月から7月にかけて、白菊の上位等級品が潤沢に入荷しましたが、需要に対して供給過剰となったことで価格は大きく下落しました。小菊は7月後半、予定より開花が早まり、8月のお盆にむけて生産していたものまでも出荷されました。これにより価格は下落、その後、8月お盆の需要がピークになるころ不足しました。

・お盆の需要期を終えると、全国的に入荷量が減少しました。これは高冷産地を中心とした気温の低下によるものです。またオリエンタルユリは、夏場の主力産地で作付が減少したことで入荷量が減少しました。オンシジュームは、海外の主力産地が台風被害を受けたことで入荷量が減少しました。アスターやケイトウなどの露地栽培のものは、開花が早まり8月上旬に出荷されたことで入荷量が減少しました。これらの入荷量の減少に伴い、全体的に品薄高となったため、需要側では計画的な仕入れができない、欠品が増えるなどし、代替品の提案に努めました。

・9月に入っても、全国的な気温低下・日照不足から品薄傾向は続き、引き合いが強まりました。小売では気温の低下とともに秋を意識させるダリア・バラなどのフェアが開催され、売れ行きも良好でした。品薄高のまま、お彼岸の需要期に入り、連休に向けたブライダル需要も旺盛で、和花・洋花とも単価高で推移するも、お彼岸の需要期のあとはその反動から相場は下落しました。

・円安の影響もあり、期間を通してスプレー菊や薬物などの輸入品の入荷量は、前年に比べ減少しました。LAユリは、主力産地のある埼玉県で、2月の大雪によりハウスが倒壊するなどの大きな被害を受けたことで、期間を通して生産量・入荷量が大きく減少しています。また、季節商材としては、夏場の日持ちが良いことなどから8月にはヒマワリの引き合いが強く、価格が上昇、前年を上回る販売金額となりました。9月に入ると気温の低下とともに、秋の草花類なども活発に取引されました。

鉢物

売上金額	958,800千円(前年同期比3.2%減)
取扱数量	4,193千鉢(同 0.5%減)

・洋ラン類の主力であるファレノは、前年に比べ人事異動や事務所移転、新規開設などの法人需要が回復し、堅調な動きでスタートしました。さらに9月には組閣によるお祝いの需要から大口取引が発生し、全体の仕入マインドが大きく上昇しました。需要は旺盛なものの、生産量は年々減少傾向にあるため品薄感が高まり、8月後半から9月にかけて高単価で推移しました。しかし、生産減少や集荷不足による入荷量の減少を補うまでには至らず、期間全体の販売金額は前年を下回りました。

・母の日商戦は、主力のカーネーションにおいて入荷量は前年並、販売金額は前年を下回る結果となりました。これは多くの産地が出荷調整をし、入荷が短い期間に集中してしまったため相場が大きく崩れたことによります。また、出荷の前段階で開花が進んでしまったことなどから、相対や注文の価格も下落しました。

・母の日以降、ブライダル向けのアジサイの需要が高まりました。アジサイは、小売りにおいても新品种の動きが好調で、夏季までの見込み数量を販売することができました。

・9月は早々から気温が下がり、秋の植栽に向けての花苗の動きがが活発になりました。しかし例年厳しい残暑から作付を10月以降にシフトした産地が多く、品薄単価高で推移しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して266,952千円減少し6,568,606千円となりました。その主な内訳は売掛金の減少195,946千円、現金及び預金の減少127,759千円であります。

負債につきましては前事業年度末と比較して262,799千円減少し1,906,714千円となりました。その主な内訳は受託販売未払金の減少234,761千円であります。純資産につきましては前事業年度末と比較して4,153千円減少し4,661,891千円となりました。これは剰余金の配当により61,073千円減少し、四半期純利益の計上により56,919千円増加したことによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末より472,240千円増加し、2,432,627千円となっております。

営業活動の結果増加した資金は、2,754千円(前年同四半期は303,909千円の減少)となりました。主な増加要因は、売上債権の減少191,019千円、税引前四半期純利益88,111千円、減価償却費82,407千円によるものです。また、主な減少要因は、仕入債務の減少233,409千円、法人税等の支払額77,077千円によるものです。

投資活動の結果増加した資金は、539,908千円(前年同四半期は33,932千円の増加)となりました。主な増加要因は、定期預金の払戻による収入600,000千円、貸付金の回収による収入142,603千円によるものです。また、主な減少要因は、関係会社貸付けによる支出134,000千円によるものです。

財務活動の結果減少した資金は、70,422千円(前年同四半期は70,251千円の減少)となりました。この要因は、配当金の支払額60,223千円及びリース債務の返済による支出10,199千円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年8月8日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,560,386	2,432,627
売掛金	1,781,764	1,585,817
その他	104,694	156,992
貸倒引当金	△8,011	△8,973
流動資産合計	4,438,834	4,166,464
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	129,961	124,052
工具、器具及び備品(純額)	228,842	232,340
その他(純額)	155,321	152,940
有形固定資産合計	514,125	509,333
無形固定資産	172,781	154,225
投資その他の資産		
関係会社株式	603,735	633,735
長期前払費用	123,846	113,203
その他	1,048,868	1,065,443
貸倒引当金	△29,033	△36,199
投資損失引当金	△37,600	△37,600
投資その他の資産合計	1,709,817	1,738,582
固定資産合計	2,396,724	2,402,141
資産合計	6,835,559	6,568,606
負債の部		
流動負債		
受託販売未払金	1,272,489	1,037,728
買掛金	27,409	28,710
未払法人税等	81,921	36,191
賞与引当金	22,134	21,150
その他	174,572	200,345
流動負債合計	1,578,526	1,324,125
固定負債		
退職給付引当金	240,137	256,389
その他	350,849	326,199
固定負債合計	590,987	582,589
負債合計	2,169,514	1,906,714

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,500	551,500
資本剰余金	402,866	402,866
利益剰余金	4,060,703	4,056,549
自己株式	△349,024	△349,024
株主資本合計	4,666,045	4,661,891
純資産合計	4,666,045	4,661,891
負債純資産合計	6,835,559	6,568,606

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	12,935,191	12,104,638
売上原価	11,659,625	10,910,747
売上総利益	1,275,565	1,193,891
販売費及び一般管理費	1,173,786	1,136,937
営業利益	101,778	56,954
営業外収益		
受取利息	2,827	2,682
受取配当金	13,000	19,500
その他	14,395	9,187
営業外収益合計	30,222	31,370
営業外費用		
固定資産除却損	18	138
保険解約損	155	75
営業外費用合計	173	213
経常利益	131,826	88,111
税引前四半期純利益	131,826	88,111
法人税等	51,412	31,191
四半期純利益	80,414	56,919

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	131,826	88,111
減価償却費	80,752	82,407
賞与引当金の増減額(△は減少)	26,049	△984
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14,509	16,251
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,260	8,127
受取利息及び受取配当金	△15,827	△22,182
有形固定資産除却損	18	138
売上債権の増減額(△は増加)	79,717	191,019
仕入債務の増減額(△は減少)	△551,370	△233,409
未収入金の増減額(△は増加)	△1,862	6,451
未払費用の増減額(△は減少)	△8,895	1,243
未払金の増減額(△は減少)	△2,696	△16,299
未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,643	21,185
その他	△38,320	△84,590
小計	△282,480	57,469
利息及び配当金の受取額	16,241	22,362
法人税等の支払額	△37,670	△77,077
営業活動によるキャッシュ・フロー	△303,909	2,754
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600,000	—
定期預金の払戻による収入	700,000	600,000
有形固定資産の取得による支出	△12,365	△12,000
無形固定資産の取得による支出	△4,279	△6,695
関係会社株式の取得による支出	—	△30,000
貸付けによる支出	△65,000	△20,000
貸付金の回収による収入	106,076	142,603
関係会社貸付けによる支出	△90,500	△134,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	33,932	539,908
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△60,791	△60,223
リース債務の返済による支出	△9,460	△10,199
財務活動によるキャッシュ・フロー	△70,251	△70,422
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△340,229	472,240
現金及び現金同等物の期首残高	2,348,905	1,960,386
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,008,675	2,432,627

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、花き卸売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

5. 補足情報

売上高明細

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)		前年同期比	
	数量 (千本)	金額 (千円)	数量 (千本)	金額 (千円)	数量	金額
キク類	53,815	2,535,020	52,236	2,352,098	97.1%	92.8%
洋ラン・バラ・カーネーション	48,019	2,981,040	47,626	2,788,169	99.2%	93.5%
球根類	18,718	1,730,755	17,669	1,581,800	94.4%	91.4%
草花類	63,696	3,290,429	62,850	3,117,269	98.7%	94.7%
枝物・葉物	25,543	1,345,484	24,330	1,240,810	95.3%	92.2%
切花 小計	209,793	11,882,731	204,713	11,080,147	97.6%	93.2%
鉢物	4,214	990,488	4,193	958,800	99.5%	96.8%
花き 合計	214,008	12,873,219	208,907	12,038,948	97.6%	93.5%
付帯業務料	—	61,971	—	65,690	—	106.0%
売上高 合計	—	12,935,191	—	12,104,638	—	93.6%

(注) 1 上記の金額には、消費税が含まれておりません。

2 上記の数量は、本数で集計しておりますが、鉢物のみ鉢数で集計しております。